



あさうみ まゆみ 芸術系教育コース准教授
浅海真弓

むら かみ ゆうすけ 芸術系教育コース教授
村上裕介

むらの けんご 姫路市立曾左小学校教諭
平野兼伍

共同
研究者

●「理論と実践の融合」に関する共同研究活動とは、兵庫教育大学のミッションの一つである「教育実践学の推進」をより一層図り、その成果を国内外に発信し、学校現場や教育委員会のニーズに応えるため、平成23(2011)年度から「理論と実践の融合」に関する学際的な共同研究を教員から公募し展開しています。

研究レポート

図画工作科・美術科における伝統文化学習教材化の視点と展開 — チェコ共和国と日本における事例の比較から —

(平成29年度理論と実践の融合に関する共同研究活動に採択)

チ

エコ(チェコ共和国)の芸術文化と聞いて皆さんは何を思い浮かべますか。不条理文学のカフカ、アール・ヌーボールの画家アルフォンソ・ミュシャ。シュールリアリストの芸術家のヤン・シュワンクマイエル。軽妙かつ濃厚な人形アニメや絵本作品の数々。あるいはきらびやかなボヘミアングラスやスメタナやドボルザークの音楽を思い浮かべる人もいるでしょう。ちょっと不思議で怪しく、でもなんだかかわいいたちエコ芸術の世界観は世界中で高い評価を受けており、日本にも多くのファンがいます。それは中欧という微妙な地政学的条件下、

自国の文化やアイデンティティーを守り続けてきた中で生まれた独自性への評価ともいえるでしょう。一方、世界の日本文化への評価の多くもその独自性にあります。例えば明治期、ヨーロッパのアートシーンにも大きな影響を与えた陶磁器や浮世絵、現代のコミックやアニメーション作品やフィギュア等。この遠く離れた小さな二つの国は世界の中で「独自の文化を創出する国」と目されています。本研究ではその両国の図画工作科・美術科の教育カリキュラムや授業の様子をプラハ大学のマリ・アフルコバ博士の協力を得

ながら比較調査し、今後両国が引き続き独自の文化を創出し続けるために必要だと考えらえる伝統文化学習の在り方についての考察を行ったものです。

調査の結果、チェコのカリキュラムでは美術を通じて個人の心象等を「表現」し伝えることが重視され、日本で育成すべき能力であるとされる「造形能力」についてはさほど取り上げられていないことが分かりました。また、過去の美術作品については、日本では優れた作例という前提での自分とは乖離した存在として鑑賞される傾向がありますが、チェコでは過去の

アートの文脈を自己の表現にどう生かすかといった指導が目指されます。このようなカリキュラムの方向性の違いは教育現場に反映されており、チェコの美術教育は絵画が中心であり、義務教育の中で「造形能力」の向上を図るような教育はさほどなされていません。一方、美術の伝統文化に関する学習はチェコではほとんど取り入れられていない状況が見えてきました。日本でも重要視されつつあるものの知識・教養として知る程度にとどまっています。チェコでは民主化以降、西洋化が進み、独自の文化が急速に失われつつあることが最近

問題視されています。伝統文化に関する美術教育は急務であるといえるでしょう。今後、両国の伝統文化教育は、日本の美術教育のスタンスのように伝統文化を重視しつつも、それを古いもの、保護すべきものという捉え方ではなく、チェコの美術教育のスタンスで生きた「表現」、自らを伝える手段・手法と見なし、子どもたちにそれらの能力を育成することが必要だと思われます。その具体的な方法やプログラムの開発について、今後も引き続きプラハ大学と連携を取りながら研究を行っていく予定です。

問題視されています。伝統文化に関する美術教育は急務であるといえるでしょう。今後、両国の伝統文化教育は、日本の美術教育のスタンスのように伝統文化を重視しつつも、それを古いもの、保護すべきものという捉え方ではなく、チェコの美術教育のスタンスで生きた「表現」、自らを伝える手段・手法と見なし、子どもたちにそれらの能力を育成することが必要だと思われます。その具体的な方法やプログラムの開発について、今後も引き続きプラハ大学と連携を取りながら研究を行っていく予定です。

問題視されています。伝統文化に関する美術教育は急務であるといえるでしょう。今後、両国の伝統文化教育は、日本の美術教育のスタンスのように伝統文化を重視しつつも、それを古いもの、保護すべきものという捉え方ではなく、チェコの美術教育のスタンスで生きた「表現」、自らを伝える手段・手法と見なし、子どもたちにそれらの能力を育成することが必要だと思われます。その具体的な方法やプログラムの開発について、今後も引き続きプラハ大学と連携を取りながら研究を行っていく予定です。

問題視されています。伝統文化に関する美術教育は急務であるといえるでしょう。今後、両国の伝統文化教育は、日本の美術教育のスタンスのように伝統文化を重視しつつも、それを古いもの、保護すべきものという捉え方ではなく、チェコの美術教育のスタンスで生きた「表現」、自らを伝える手段・手法と見なし、子どもたちにそれらの能力を育成することが必要だと思われます。その具体的な方法やプログラムの開発について、今後も引き続きプラハ大学と連携を取りながら研究を行っていく予定です。

問題視されています。伝統文化に関する美術教育は急務であるといえるでしょう。今後、両国の伝統文化教育は、日本の美術教育のスタンスのように伝統文化を重視しつつも、それを古いもの、保護すべきものという捉え方ではなく、チェコの美術教育のスタンスで生きた「表現」、自らを伝える手段・手法と見なし、子どもたちにそれらの能力を育成することが必要だと思われます。その具体的な方法やプログラムの開発について、今後も引き続きプラハ大学と連携を取りながら研究を行っていく予定です。



↑プラハキュビスム美術館の学習スペース



↑国立マリオンネット劇場での伝統的なマリオンネット作りワークショップ



↑プラハ大学で開催した墨のワークショップの様子